

平成 29 年度防災教育・復興教育推進事業（いわての復興教育スクール）成果報告書

学校名：岩手県立久慈東高等学校

I 事業の概要（地域に実情含む）

東日本大震災時、本校では3月11日に帰宅困難生徒13名が学校に宿泊し、3月12日には格技場に約70名の市民が避難してきた。また平成28年8月に発災した台風10号により多数の生徒が被災したとともに、生徒や職員が居住する久慈市や岩泉町で甚大な被害が生じた。これらの経験を踏まえ、災害発生時に自分の身を守ることに加え、地域の一住民として高校生ができる支援について考えさせた。また、地域連携型指定校として、近隣の久慈小学校、久慈中学校と協働しながら共に防災意識を高めるとともに、実践的な防災行動をとるための共通理解を図ることを目標とし、事業に取り組んだ。

II 取組の概要**1 地域連携型指定校としての取り組み**

隣接する久慈小学校、久慈中学校と本校が地域連携型の指定を受け、地域の防災力の向上を図るため、その基盤の形成に努めた。互いの学校の避難訓練や、各校で開催している防災講座等への参加を通し、異なる発達段階にある生徒の実態について理解を深めた。

（1）地域防災推進委員会

久慈東高校を会場に、小中高の各復興教育スクール担当者を中心に、6/7、10/30、2/26の年3回開催した。第2回の委員会には県教委、久慈市教委、久慈市消防防災課等の関係機関にもご出席いただいた。当日は学校防災アドバイザー事業を活用してお越しいただいた盛岡地方気象台の専門官の方々から災害や気象について講義をいただき、学校の安全を守るための共通理解を深めた。また、発達段階に応じた防災教育の在り方や災害発生時対応基準表の作成について協議を行い、地域における防災上の課題について共通認識を図った。

**（2）久慈中・久慈東合同防災セミナー**

10/30、久慈中学校体育館を会場に、久慈中学校1年生153名と本校介護福祉系列2・3年次生48名合同の防災セミナーを実施した。第I部では避難所運営ゲームHUGを実施し、避難所運営をする場合の様々な困難や想定される事例について意見を交わしながら交流を深めた。第II部では本校が以前より文化祭等で取り組んできた防災キット（救助がくるまでに必要なエネルギー源となる食物等を牛乳パックに詰めて備えておくもの）を久慈東高校生が久慈中学生に教え、作成してもらった。高校生が中学生に、中学生が家族に、そして地域に・・・という広がりが期待される取り組みとなり、自校で完結していたものが新たな価値をもって発信されていくことが、高校生にとっては大きな達成感と自信につながったようである。

**2 久慈東高校としての取り組み**

地域連携型の指定を受ける以前より本校が力を入れて取り組んできたことは、宮古市田老地区にある田老サポートセンターとの交流である。田老サポートセンターはグリーンピア田老内に設けられた仮設住宅利用

者の方々の生活をサポートする拠点であるが、現在は仮設住宅も撤去されつつあり、多くの利用者は復興団地に移転している。しかし、3年前からの交流が実を結び、久慈東が交流会を実施する際には復興団地からバスを乗り継いで参加して下さる利用者の方々が大半である。今年度は久慈東にある7系列すべてが田老サポートセンターとの交流に参加し、6/23、10/27、1/19の3回に渡り、各系列の特性を生かした交流会を実施した。(参加者：生徒・職員延べ148名)

↓(介護福祉系列：糸かけ曼荼羅づくり)



↓(食物系列：水切り絵づくり)

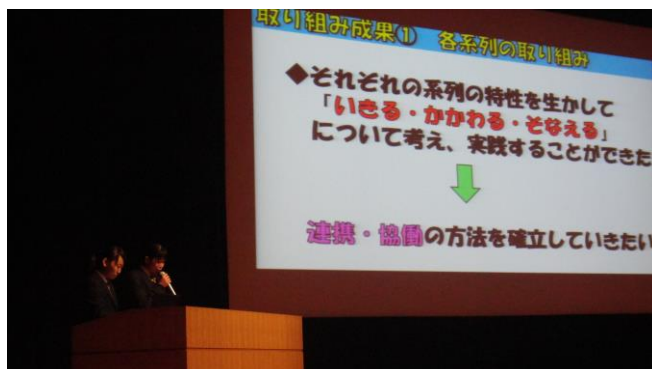


また、今年度は交流会後に宮古市観光分会交流会による「学ぶ防災」を受講し、被災地と被災者の生活への理解を深めた。



さらに、総合的な学習の時間においては共通テーマ「防災・復興」を設け、各系列が研究に取り組んだ。その成果を「久慈東のいきる・かかわる・そなえる」

として、11/30に久慈市文化会館で開催された学習成果発表会において発表し、全校生徒、保護者、地域住民に発信した。



II 取組の成果と課題

1 地域連携型指定校として

日頃の学校活動全体を通して他校種と交流することはほとんど無い状態であったが、今年度地域連携型の指定を受け活動したことにより、異なる発達段階にある生徒がどのような防災・復興教育を経験するのか見通せるようになり、系統的な防災・復興教育の在り方を考えられるようになったと思われる。また、行政や専門機関との関わりを持つことで、久慈という地域の特性についての理解を深め、地域共通の課題を共有できるようになった。今回の地域連携型の指定から気づき得た学びと連携方法が、今後久慈地域全体の防災・復興教育の基盤となり形を成すことができるよう、今後も連携していくことを第3回の地域防災推進委員会で確認した。次年度以降も形を変えながら、互いに無理のない範囲で連携を続けていきたい。

2 久慈東高校として

今年度はこれまで3年間継続していききた田老サポートセンターとの交流及び「防災・復興」に関する研究を7系列全てが取り組むことで、自分たちの専門的な学びが支援へとつながること、高校生の自分たちの地域における役割など、大変多くの気づきを得ることができた。特に交流や研究を通し、多くの人と関わり、温かいふれあいを持つことで、世代を超えて相手とつながることの喜びや、コミュニケーションを通して理解を深めることの大切さを実感したようである。今後も被災者の支援に携わるだけでなく、被災者から多くを学び、防災や復興について自発的に考え、関わりを通して自己有用感を高めながら、主体的に社会で生きていく力を養っていけるような取り組みが必要であると考え。「地域に根ざし 夢を拓き 未来を育む」という本校の教育目標の実現に向け、地域社会の発展に貢献する中で自己実現を図ることができる生徒の育成が今後の大きな課題である。